

平成 27 年度 若林図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日 時 平成 28 年 1 月 30 日(土) 13:30～15:20
- 2 会 場 若林図書館 2 階 視聴覚室
- 3 参加者 利用者 9 名(個人利用者 2 名、ボランティア団体 2 名、
若林図書館応援団 2 名、若林区文化センター職員 1 名、
若林区中央市民センター職員 1 名、若林区中央児童館職員 1 名)
図書館職員 3 名(館長、副館長 2 名)
株式会社ヴィアックス図書館事業本部東北営業所 1 名(所長)
*予定していた区内小学校からの参加者は欠席

4 配布資料

- ・若林図書館概要
- ・平成 27 年度仙台市図書館要覧
- ・平成 26 年度仙台市図書館運営方針、仙台市図書館事業計画
- ・利用案内
- ・若林図書館カレンダー
- ・予約ガイド
- ・インターネットサービス(利用者メニュー)について
- ・レファレンス(調査・相談)サービスのご案内
- ・本びより
- ・ひまわりつうしん
- ・おはなし会ノート
- ・まんまるシアター
- ・自主事業チラシ
- ・株式会社ヴィアックス図書館事業本部紹介チラシ

5 内 容

○参加者自己紹介

一言ずつ挨拶をいただいた。

○図書館の事業概要説明

指定管理者・株式会社ヴィアックス図書館事業本部東北営業所所長より、指定管理者制度と会社経営理念について説明した。

館長より、若林図書館概要と自主事業報告、仙台市図書館運営方針について説明した。
本年度より指定管理者による運営となり、各種自主事業・講座に力を入れていること、また平成 27 年度利用者アンケートの結果概要を話した。

6 懇 談

参加者全員からご意見等をいただき、図書館から説明・回答した。

[意見]

<若林区文化センターより>

- 指定管理者に移行した当初の 4 月、5 月は、スタッフが緊張しているように見られたが、今では表情が明るくなり、前向きに取り組んでいる印象を受ける。

○図書館資料を使って勉強する姿が見られなくなって久しいが、各種事業を通して居場所を提供できればよいだろう。

<個人利用者より>

- 従来の運営形態の図書館がよかったと言われても、自信を持って業務にあたってほしい。
- 利用者数をアップさせることは容易だ。
- 知的な利用者にとっては専門書や歴史書が少なく、深く知りたいという人にはもの足りない図書館だ。たとえば太極拳の資料を探したが、入門書しかなかった。
- 仙台市内の図書館はどこも、手に届くところに貴重な郷土資料がない。他県図書館を見学した際、実際に手にできる郷土資料の多さに感激した。
- 図書館に来館する人をいろいろな理由で排除しないでほしい。また、物を言わない子どもたちも大切に受け入れてほしい。
- 同じ仙台市の図書館でも、雰囲気がこうも違うものかと感じることがある。
- 若い母親は児童館のほうが行きやすいのではないか。
- 今年度になってから、カウンターのスタッフが笑顔に変わった。

<若林区中央市民センターより>

○地域に興味を持ってもらえるという意味で、同じ立場の社会教育施設として協働できることが多いだろう。ただ、利用者に対してどう興味を持たせるか、という動機づけが課題だ。図書館とともに様々な仕掛けを試みたい。

<ボランティア団体より>

- 文庫活動にあたり、ネットワーク書庫の資料では新しい本が足りない。新刊の購入を希望する。
- 以前よりも図書館の雰囲気がよくなった。
- 季節に見合った、めずらしい資料を置いてほしい。
- 駐車場を使いやすくしてほしい。

<若林図書館応援団より>

- 指定管理者への移行初日、どうだろうかと気になっていたが、スムーズに開館できたと感じている。自主事業ではビブリオバトルが興味深い。
- 若林図書館応援団として修理ボランティアにあたっているが、今年度は修理本が相当量増えた。資料の扱い方が従来どおりであるなら、これまでは返却時にしっかりチェックしていなかったということだろう。修理にはやりがいを感じている。
- 民間の業者になったということは、柔軟な発想で図書館運営を、との期待があるのだろう。独自の企画で特色を打ち出してほしい。

- 図書館のスタッフは静かな人が多いのだろうか。もう少し活気があってもいいだろう。
- 1月27日の朝日新聞に「図書館の原点」という記事があった。ぜひとも参考してほしい。

<若林区中央児童館より>

- 児童館は予算が少なく、古い本が多い。来館する母親らは、来館のついでに本を借りることがほとんどなので、乳幼児には汚れた本は貸せないと感じている。
- 本を通したコミュニケーションは非常に大切だ。ただ、実際はその読書の先にあるものが大切だと思っている。これを追求してほしい。

[質問・要望]

<若林図書館応援団より>

- 他館では大量の不明本があると聞いたが、どのくらいの本が不明なのだろうか。また返却期限を守らない利用者に対して、どう対応しているのか。借りる権利はあるが、返す義務もあると思う。図書館の利用停止等の処分を行ってもいいのではないか。
- 昨年11月に実施した蔵書点検では、不明本が約600冊強という結果だった。未貸出のままの資料持ち出しについては、スタッフの巡回で対応しているが、利用者のマナーによるところが大きい。返却の遅れている利用者に対しては、定期的に督促連絡を行っていることを説明。
- 若林図書館応援団として返架ボランティアをしているが、服飾、料理の棚が入れづらい。これでは借りる側も不便だろう。
- 資料の大きさごとに整理し、日頃から使いやすく探しやすい書架を目指すことを説明。

<ボランティア団体より>

- 他館では行っているが、おはなし会が始まる際には、ぜひとも声がけをしてほしいし、小さくとも構わないので看板等を入口付近に置いてほしい。
- 適宜館内放送をし、掲示物等で対応していくことを考えている。
- 自主事業、ぜひとも広く告知してほしい。
- 現在は市政だよりや仙台市図書館ホームページ、館内掲示物やチラシで告知を行っている。さらに力を入れることを考えている。

<若林区中央児童館より>

- 児童館に勤務しているが、読書に対する興味を持たせるにはどうしたらよいかと常に考えている。他の行事とセットで読み聞かせを実施することで、参加者は増えるのではないだろうか。
- 図書館側でも連携事業を行いたいと考えている。
- 支援パックや団体貸出の手続きが煩雑で断念している。

→必要書類等はあるが、スムーズに行えるよう個別に検討することを説明。

<個人利用者より>

○自主事業「ヤギさんおはなしかい」は興味深い。ぜひとも継続してほしい。

→冬季は近隣の寺のご厚意により本堂で実施している。地域との関わりをこれからも継続していくことを説明。

○本を大切に使いたいという思いから、ブックポストは使いたくない。

→ポスト内はクッションを敷くなど、できる限り資料が傷まないよう配慮している。なお視聴覚資料は開館時間内にカウンターへの返却をお願いしていることを説明。